市政トピックス

味自慢の各店で『ささ結』を味わおう！「新米フェア2019」を絶賛開催中！

11月1日から、世界農業遺産ブランド認証米『ささ結』の新米が味わえる「新米フェア2019」を、市内の飲食店で開催しています。

あっさりさらさら、冷めてもおいしく、全国で好評いただいている『ささ結』。寿司、おむすび、酒、カレー、おしゃれなランチプレート、ジェラートなど、和食に限らず、多種多様な各店の自慢のメニューで提供されています。

新米フェアは、『ささ結』を広く、身近に味わってもらおうと、昨年から開始した取り組みです。今年は、市内全域で28店舗（飲食店17店・寿司業組合加盟11店）に参加いただいています。

期間は12月27日まで、『ささ結』提供の目印は、白いちょうちんと、のぼりです。

また、参加店の詳細などを記入したパンフレットを、農林振興課や各総合支所、市内の公共施設で配布中です。

ぜひ、この期間に、大崎耕土の恵みたっぷりの『ささ結』を味わってみてください。

▲新米のふっくらとした味わいを楽しめます（写真は図書館内「cafe きらり」）

▲白いちょうちんが、『ささ結』を提供している店舗の目印です！

本市で第1号となる「企業版ふるさと納税」贈呈式を行いました

市では、市が実施する地方創生プロジェクトに対し、企業から応援いただく「企業版ふるさと納税」の寄付を受け付けています。

この取り組みは、国が認定した地方創生プロジェクトに企業が寄付を行うと、税額控除の優遇措置が受けられる制度です。また、企業のメリットとして、企業と行政の新たなパートナーシップ構築や、地域資源などを生かした新事業の展開が期待されています。

11月11日、㈱RSテクノロジーズ（三本木地域）から、本市で第1号となる「企業版ふるさと納税」を受けました。

いただいた寄付は、同社の希望により、市内企業の活性化や、企業ブランド向上による人材流出防止、人材の確保を目的とした「大崎市地域再生計画」に活用していきます。

大崎市地域再生計画では、市内の企業間連携における新製品・新技術の開発支援や、市内の高等学校での企業合同プレゼンテーションなどを掲げています。「おおさき産業フェア」の開催補助や、インターンシッププログラムの支援なども、同計画において進めている事業の一部です。

企業版ふるさと納税は、令和2年3月末まで受け付けし、各種事業に活用していきます。

詳しい内容は、政策課（☎㉓2129）にお問い合わせください。

▲企業版ふるさと納税 目録を手渡すRSテクノロジーズ 方永義（ほう） 社長（右から3人目）

2019 11月の主な出来事

1日	●鹿島台商業高等学校創立70周年記念式典
	●大相撲「宮城野部屋」炊き出し
2日	●第16回松山邑まつり
	●第14回青少年健全育成古川大会
3日	●大崎市表彰式
5日	●伊達な商談会 in Osaki 2019
6日	●第12回おおさき子どもサミット2019
	●第1回令和元年台風19号災害復旧推進本部会議
7日	●災害復興支援 鹿島台秋互市（～12日）
10日	●大崎市市民文化祭総合開会式
13日	●納税表彰式
14日	●岩出山高等学校創立90周年記念式典
17日	●第3回ふるさと宮城民謡フェスティバル
22日	●第3回みやぎ・大崎耕土『ささ王』決定戦2019
	●第33回大崎バルーンフェスティバル（～24日）
29日	●大崎市安全・安心まちづくり大会
	●平和作文コンクール表彰式
30日	●子育て支援拠点施設「わいわいキッズ大崎」オープン式典

Discover Osaki

地域発 お・ら・ほ・の・ま・ち

自分の住む地域を「おらほ」というと、親しみや愛着を感じませんか。
おらほの地域づくり、おらほの隠れた名所、おらほのおいしい特産品、おらほの伝統のまつり、おらほのイベント・・・。
そんな、愛してやまない「おらほの地域」を発信します。

鳴子温泉発

狂言の奥深さ 笑いで体感

11月18日、鳴子小学校で「狂言教室」が開催され、鳴子・川渡・鬼首小学校の児童が狂言の世界を楽しみました。

講師に招いた大蔵彌太郎千虎（おおくらやたろうせんとら）さんは、約700年前から継承され武士が愛した狂言の背景を、ユーモアたっぷりに説明。また、「びょうびょう」「ズカズカ」といった、とっぴにも感じられる擬音の発声や、仕草を大きく見せる舞を披露すると、生徒は見よう見まねで体験し、大笑いしながらも興味津々な様子で狂言の世界を体感していました。

日本の作法や思いやりの心が、狂言に表現されていると大蔵彌太郎千虎さんはいいます。参加生徒は、狂言の面白み、奥深さを体感することで、伝統芸能の大切さを学ぶ機会となりました。

◀両手を笛に見たて、生徒も狂言師になりきりました

古川発

地域と人のご縁 つながる2つの「宮沢」

古川地域宮沢（みやざわ）地区と、山形県尾花沢市宮沢（みやざわ）地区では、漢字表記の地域名が同じという共通点から、互いの食や文化を通じた交流が続いています。

11月17日、平成16年から2年に1度行われている「第8回みやざわ みやさわ食流祭」が、古川宮沢地区公民館で行われました。会場には、山形芋煮、玉こんにゃく、餅など、2つの宮沢地区自慢の「食」がところ狭しと並び、おいしい匂いが漂う中食べ歩く人々でにぎわいました。

山形県尾花沢市は、「花笠音頭」発生の地として有名です。古川宮沢地区では、本家 尾花沢市に習い花笠音頭を練習しています。この日のオープニングでは、2つの宮沢地区から総勢26人が躍りを披露し、人と文化の結びつきを深めていました。

◀地域名のご縁をきっかけに、花笠音頭の輪が広がります

松山発

大崎全域の伝統文化が大集合

11月17日、松山公民館を会場に「第6回大崎伝統芸能フェスティバル」が開催されました。

市内には、神楽、踊り、太鼓など、地域に脈々と受け継がれてきた伝統芸能が数多く存在します。この日は、古川・松山・三本木・岩出山・鳴子温泉地域の8団体が集まり、華麗な舞や迫力ある音色を響かせていました。

鳴子温泉地域は、鬼首神楽保存会が「平敦盛・玉織姫の別れ」を披露。10代の若さで討たれた平敦盛と、その妻 玉織の悲しい運命が表現され、その見事な演舞に会場が引き込まれていました。

◀夫である平敦盛を引き留める、玉織姫の切ない歌声が響きます